

明治32（1899）年愛知県布袋町（現江南市）の中小企業の製紙工場の家に生る。岐阜市立岐阜商業、名古屋中学校、八高を経て、大正14年東京帝国大学工学部土木科を卒業。帝都復興局に勤務。昭和3年都市計画地方委員会技師兼地方技師として愛知県都市計画課に転任。11年三重県に転じ、14年須三重県都市計画課長となる。17年東京府道路課長、18年埼玉県土木課長、21年内務省国土局調査室勤務。22年第1回参議院選挙全国区に全建委員長として立候補して当選。24年共産入党。28年の第3回参議院選挙に落選。その後も共産党員として活躍し36年第8回党大会で中央委員、39年中央監査委員となる。45年（1970年）9月死去。71才。日本共産葬。

昭和3年よりの愛知県時代は、石川栄耀技師の下で都市計画、殊に土地区画整理事業で活躍した。郊外の都市計画街路を区画整理組合事業により実現するという當時としては困難な事業に取組んだ。同志と計って土地区画整理研究会を設け、10年10月機関誌「区画整理」の創刊号に「創刊の言葉」を書いている。この雑誌は戦前の区画整理に関する唯一の研究書として全国的に愛読された。

理論家の彼は、区画整理のためには経済学が必要であるとして経済学を勉強し、マルクス経済学に入行って行き

社会主義的思想の基礎を作ったようである。

11年よりの三重県時代には、四日市工業地帯の計画や、伊勢の神都計画を推進した。

21年内務省国土局に転ずるや、かねてから技術者の地位が低いことをなげていた彼は、内務省系土木技術者の地位向上を目的とした全建（全日本建設技術者協会）の創立を推進し、同年12月全建を結成して初代委員長となる。国会に対し建設省設置を要望したが、政治力の必要を痛感し、22年の第1回参議院選挙に全建を中心とする土木技術者の応援を得て当選した。全建は建設省設置促進大会を開催し、23年1月設置された建設院を、7月建設省に昇格することに成功した。

かねてから社会主義的思想の彼は、技術者運動に限界を感じたのか、24年共産入党し、全建委員長を辞任した。信念に徹した結果であろうが、全建からは劇しい非難を浴びた。共産入党後も、土木技術者として水害問題等に一貫して力をそそぎ、国会の内外で活躍した。

